

子ども

遊ぶ喜びと大切さ

高橋 文子

遊びのボラジキ、すの餅様、十五周年おめでとうございませう。ボラジキ、すの餅が十五年も起つていたとは知らずに、毎週ボラジキ、すの餅の人達が来るのを楽しみにしています。最初、遊びのボラジキ、すの餅というのは、看護士さんたちの仕事の間を流すためにいるおまじいのような存在だと思つていました。けれど、本当は、子供達に必要を存在だとい

うことに気づいた。僕のように病気で入院している子供達は、毎日看病につながられ、生活の場が病院という限られた環境の中で、つらい治療に絶えなかり、日々病室と闘っています。入院中は、外で遊ぶことも学校などに行くこともできません。でも、入院している子供達にも楽しめがあります。それは、遊びのボラジキ、すの餅さんが遊びに来てくれる事です。おんな、遊びのボラジキ、すの餅さんが来る事を知ると、いつもは飲まない薬をがんで飲んで

たり、身の回りの事も自分で済ませたりします。毎週土曜日の午前中だけという限られた時間の中で、子ども達は遊びを子供達に提供してくれませう。患者としてではなく、一人の子供として接している態度に感謝しました。入院中は、つらい治療や注射の毎日、楽しい事なんて一つもないし、ストレスや不安が増えるだけだし、そんなストレスや不安を少しでも知らなくてくれるのが、遊びのボラジキ、すの餅さんです。ボラジキ、すの餅さん

遊んでいる時は、入院中の不安やつらさを忘れさせてくれるし、自分にと、でも楽しい時聞だと感じられる。入院生活はともつらいです。でもその外、自分と同じように病室で長期入院している子供達の苦痛を理解する事ができます。入院中は、家に帰りたいとか外で遊びたいなどという気持ちでいっぱいです。そんな子供達もボラジキ、すの餅さんと遊んでいる時は、入院中のつらさを忘れてしまおうと、ついシラシラしていき、子供にと、遊ぶおまじい治療以上に必要で大切な事なんだと感じられます。